
works.01

さびしんぼう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

works.01

【Nコード】

N5574Z

【作者名】

さびしんぼう

【あらすじ】

2x年、人類の数は著しく減少し、世界には二つの大国とその周辺の十にも満たない小国ばかりとなっていました。二つの大国を結ぶ唯一の道、青空のもと荒野に真っ直ぐのびるその道に一軒の宿がありました。この物語はその宿を経営する一組の男女とそこを訪れる旅人達の日々です。

夢01

夢をみていた。SF小説を読み終えたような、曖昧で、境界が分からなくなるほどの酩酊感に僕の身体は侵されていた。数多の星が頭上遙か彼方にも、足下吸い込まれそうなほど深いところにも 散りばめられている。間違はなく夜であるはずなのに、硝子を通して見る街灯のような淡い、透き通った光で溢れている。橙、紺碧、檸檬、新緑、血赤、それぞれの星達が発する色が混ざる事はない。そんなところに僕はいた。何も考えず漂っているのは意外と、気持ちのよいものではなかった。綺麗であるが焦点の定まらないような光景に嫌になる。銀河鉄道に乗ったジヨバンニ、あるいはカンパネルラもこんな気持ちだったのだろうか。光の眩しさに心は定まらず、不細工に揺れていた。次の思考が始まろうとするとき、光は瞬く間に消え、僕は目覚めた。

宿屋の朝

朝日がのぼり、白みがかつた空に少し赤が差し、熱を帯び始める。鳥達はそれに引き付けられるように羽ばたき、重なって大きく聞こえた羽音はあつという間に小さくなっていく。その音に目を覚まし、しつとりと汗ばんだシーツから身を起こす。まだ体には覚醒していないようで、思考と行動があっていない。羽音が止んだかと思つと今度は水が流れる音が下から聞こえてくる。時折、食器のぶつかる音や包丁が刻む音が微かに聞こえてくる。彼女が厨房でこなす仕事はほぼ完璧に近く、時間さえも正確だ。いつも通りの朝である。この音を聞いてやつとはつきりと目を覚ます。ベッドから出て着替えをし、用を足してから階段を降りていく。

廊下を抜け、厨房に入ろうとしたとき、彼女が配膳する食器を抱えながら出てきた。

「おはよう、柚稀。」

高く積まれた食器の向こうからすつと顔を出し、

「おはよう、涼。」

この宿を切り盛りする女将である出原柚木は大きくはないがはつきりと聞き取りやすい言葉を返した。

「今日は一組しか泊まってないから、朝御飯はもうできてる。ひと足遅かったわね。」

「別にいつも通りの時間に起きてきたんだからしょうがないよ。ところで、一組のお客さんしかいないのは分かっているけれども、それならそのお皿の塔はどうしたのかな。」そんなに背が高くない彼女が抱えている皿を、僕は見て言う。

「さつき電話があつたの。何故かは分からないけど、二十人の団体の予約だつて。宿泊は明日の予定なんだけど、この朝早くに電話してくるなんてよほど急いでいるのね。電話の向こうも慌ただしかつ

たし、だからちよつと不安なの。一応準備だけは早めにしておこう
と思つて普段使つてない皿を出してきたんだけど。」

言葉では困つていたりといった感じではあるが、顔は少しにやけてい
た。無理もない。最近、というより慢性的にだが、この宿を訪れる
客は少ない。この宿の前に続く道の先々の二国を行き来する人はあ
まり多くないのだ。そうなると必然的に経営は苦しくなってくる。

一日五人にも満たないこの宿に二十人ともなれば、まさしくうれし
い悲鳴という言葉がぴったりなのである。

「……珍しいこともあるもんだね。そんなにお客さんが来るなんて
何年ぶり、いや、初めてなんじゃないかな。」

口に出してからあらためて考えると確かに怪しきは拭えない。都合
のいい話なんて滅多にありはしないのだから、何かしら理由がある
もので。

「今さら、気にしてもしょうがないでしょ。もう予約受けちゃった
んだから。さあ、涼も早く仕事して、到着は明日だけど使つてない
部屋の掃除とか、食事の仕込みとかやることは山積みなの。」

柚木はそう言うと、抱えた食器を危なげなく、そそくさと食堂の方
へと運んでいった。

僕も厨房で手をよく洗い、朝食の配膳の準備に取り掛かる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5574z/>

works.01

2011年12月25日02時00分発行